

# 学習手段としてのリソースの利用状況について

## －韓国人日本語学習者（JFL）を対象に－

柳川 紘子

### 要 約

韓国で学ぶ韓国人日本語学習者（JFL）は、「日本のドラマや映画を見ると、日本語学習に役立つ」というように、学習手段として何らかのリソースを用いているようである。これまでの研究では、学習手段としてのリソースがどのように使われているのか、詳しく調べられていないため、本研究では、インタビュー調査を通じて、学習手段としてのリソースの利用状況を調べることにした。

### 【キーワード】

学習手段としてのリソース、学習ストラテジー、自律学習

### 1. はじめに

韓国で学ぶ韓国人日本語学習者（JFL）の中から「日本のドラマや映画を見ると、日本語学習に役立つ、日本語が上手になる」といった声がよく聞かれる。『平成15年度 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 韓国アンケート調査集計結果報告書』によると、韓国人日本語学習者（JFL）は日本語の授業以外でどのようなものを日本語で最も見聞きするかという質問に対し、1位「コンピュータ」、2位「テレビ番組」、3位「マンガ」であった。しかし、それらを見たり聞いたりする理由は、「楽しいから」「日本語に触れたいから」となっており、学習手段としてリソースをどう捉えているのかはよくわからない。

学習手段としてのリソースの利用状況について知ることは、学習者の興味や学習方法の好みが変わり、教材を選択する場合や、学習者にリソース利用や学習方法を提示する上で参考になるであろう。よって、本研究では、学習手段としてのリソースの利用状況について調査を行った。

### 2. 先行研究

リソースについての定義は、田中・斎藤（1993）では、学習に関するインターアクションの対象となるもの、学習の素材を学習リソースとよび、トムソン木下（1997）では、実社会での日本語使用のための学習に使い、実際の日本語使用にも役立ち、また日本語使用の対象となる学ぶ材料であるとしている。そして、小河原・笠井・石井（2006）では、学習者が日本語を学

習する際に接触する人・物・場や機会といった対象をリソースと考えている。

このように研究者によって、リソースの定義が少しずつ異なるが、本研究のリソースとは、学習者が学習に意味があると思うもの、学習者が学習手段として捉えているものとする。

学習者がどのようにリソースを利用しているかについてのインタビュー調査は、工藤（2006）、小河原・笠井・石井（2006）、鈴木（2007）がある。

工藤（2006）は、台湾に住む高校生、大学生、社会人、植民地統治時代に日本語教育を受けた人々、日本人との国際結婚家庭の子どもたちなどにインタビューし、どのようなリソースをどのように利用しているかを分析し、学習者の具体的な学習利用の一端を見ることができた。

小河原・笠井・石井（2006）は、同様に学習者が具体的にどのようなリソースと接触し、それを評価しているのかについての韓国におけるインタビュー調査で、その調査の方法の検討がなされてある。

鈴木（2007）は、日本国内の大学留学生に対し、J-POPやアニメ、映画、テレビゲームなどに関して、個別対応型授業において学習者がどのようなものを利用したのかを報告し、学習者がその学習をどのように認識していたのかを探っている。

これらの研究は、どのようなリソースをどのように利用しているのか、また学習者と日本語学習との関わりを重点に研究されたものである。よって、それぞれのリソースを学習手段としてなぜ利用するのか、リ

ソースをどのように認識しているのかといった点については詳しく述べられていないので、それらについて調べる必要がある。

### 3. 研究課題

1. 韓国で学ぶ韓国人日本語学習者（JFL）が学習手段としてリソースを利用する理由は何か。
2. リソースを使って、どのように学習しているのか。
3. リソースの利用が、日本語学習にどう役立つと考えているのか。

### 4. 研究概要

#### 4.1 調査方法

上記研究課題を調べるのに、アンケート調査だけで

は具体的な内容が得られないと考え、インタビュー調査中心に実施することにした。

まず調査対象者に性別、母語、年齢、身分、日本語能力（自己評価）、日本語学習歴、学習目的、利用している学習リソースについて記入してもらい、それをもとに、1人10~15分程度の半構造化インタビューを実施した。言語は調査対象者が自由に話せるよう母語である韓国語で、インタビュー内容をボイスレコーダーに録音した。

調査は2007年9月~10月に、現在日本語を学習している（自律学習を含む）学習者18名にインタビューを実施した。インタビュー対象者の内訳を表1に示す。

そして、以下の内容についてインタビューを行った。

- (1) 日本語学習のために、どうしてそのリソースを利用しますか。（各リソースについて質問）

表1 インタビュー調査対象者の内訳（18名）

《初級（『みんなの日本語』で学習中）学習歴6ヶ月~7ヶ月》

	性別	年齢	身分	学 習 目 的
A	男	26	大学4年	日本で就職したいから。
B	女	26	無職	日本語に興味があるので。
C	女	26	会社員	仕事に必要なだから。
D	女	27	大学4年	専攻（デザイン）に関連した本を読むため。
E	男	23	大学1年	日本に行って生活するため。
F	男	29	エンジニア	日本人の友達と会話をするため。 日本のドラマ映画を自由に視聴するため。
G	男	26	大学4年	日本就職、日本旅行。

《初級終了（『みんなの日本語』終了）学習歴1年3ヶ月~6ヶ月》

	性別	年齢	身分	学 習 目 的
H	女	24	会社員	日本に留学したいので、勉強している。
I	女	32	会社員	日本に留学したあと、日本で仕事がしたい。
J	女	29	会社員	好きな芸能人がいるから。
K	女	27	学生	日本で日本人と自由に会話をするため。 日本の小説を日本語で勉強したいから。
L	女	32	会社員	特別目的なく勉強している。
M	男	29	アルバイト	近い国だし、交流の機会が多いと思い勉強している。

《中級 学習歴10ヶ月~5年》

	性別	年齢	身分	学 習 目 的
N	女	22	大学3年	はじめはアニメを見て、興味を持ち、今は日本文学（特に小説）にも関心があり、ずっと勉強している。
O	女	21	大学3年	日本人と会話ができるようになりたい。 あとでできるなら日本で就職したい。
P	女	22	大学2年	第二外国語習得。日本へ留学したいから。
Q	男	23	大学1年	将来に役立ちそうで、韓国語と似ていて、楽に習うことができると思ったから。
R	男	32	サービス業	日本の文化に接するため。

- (2) そのリソースを使って、どのように学習していますか。(各リソースについて質問)
- (3) そのリソースが日本語を学習する上で、どう役に立つと思いますか。(各リソースについて質問)

#### 4.2 インタビューの結果

まず学習者が学習手段としてどのようなリソースを利用しているかであるが、学習者18名は「マンガ・童話・小説・雑誌・ゲーム・ドラマ・アニメ・テレビ番組・映画・歌・教科書・参考書・インターネットサイト (mixi, blog)・電子辞書・無料新聞の日本語会話の記事のスクラップ・PMP・e-mail・交換スタディ・日本人との交流会・グループスタディ」<sup>1</sup>など様々なリソースを利用していることがわかった。表2にどのようなものがよく使われているのかわかるように、学習手段としてのリソースの利用数を示した。

表2 学習手段としてのリソースの利用数

リソース	初級	初級 終了	中級	計
マンガ	0	2	2	4
童話	0	1	0	1
小説	0	2	2	4
雑誌	0	0	2	2
ゲーム	2	0	0	2
ドラマ	3	2	2	7
アニメ	2	2	3	7
テレビ番組	1	3	1	5
映画	1	5	0	6
歌	1	4	3	8
教科書	5	3	2	10
参考書	2	1	2	5
インターネットサイト	1	2	0	3
電子辞書	2	2	3	7
無料新聞の日本語会話の記事をスクラップ	0	2	0	2
PMP	0	0	1	1
e-mail	0	0	2	2
交換スタディ	2	2	2	6
日本人との交流会	1	0	0	1
グループスタディ	0	1	0	1

##### 4.2.1 学習手段としてリソースを利用する理由

学習手段としてリソースを利用する理由の1つは、

聞き取り練習(ドラマ・アニメ・テレビ番組)、文法(教科書・参考書)、自然な会話表現を身につける(ドラマ・映画・インターネットサイト)、会話練習(交換スタディ)など、技能上達のための手段としてである。Hさんは、「テレビ番組は聞き取りにいい。2回目に見ると、聞こえなかったものが聞こえるようになる。」と述べ、またLさんは、「交換スタディは2人なので、コミュニケーションをしなければならず、使うようになるので会話が上手になる。」と述べていて、自ら上手になったことを実感し、技能上達の手段と捉えている。

2つ目は、日本語に対する興味を失わないように、楽しむために利用しているという理由である。特に、ゲーム・ドラマ・映画・歌などのリソースで、そのような意見が見られた。Cさんは、「文字が日本語で出てくるPSPのゲームを利用しているが、少しでも日本の文化に触れたくて利用している。」と述べ、ゲームが好きということと日本語に触れたいという理由でゲームを利用している。Gさんは「ドラマが面白いので勉強がよくできるから。」と述べ、楽しむことと日本語学習をつなげて利用している。

3つ目は、日本人の友達との交流するために利用しているという理由である。これは、インターネットサイトのmixi・e-mail・交換スタディを利用している学習者からの意見である。Fさんは、「mixiを利用して、日本人の友達とメッセージのやり取りをしていて、友達を作りたいから利用している。」という。またLさんは、「交換スタディで日本人の友達を作ることができ、日本の文化を理解することができた。」と話していた。

リソースを利用する理由は、以上のように主に3つ分けられるが、リソースの種類によって利用する理由が違ってくるともわかった。雑誌は、日本で何が流行しているかを知るため、教科書は、基礎を確立するため、電子辞書は、わからない単語を調べるためなどである。

##### 4.2.2 リソースを利用しての学習方法

学習方法は、学習者、リソースによって多種多様で、同じドラマを利用する場合でも、「字幕を見ながら、使われている言葉にどのようなものがあるか、本と話す言葉が違うのでそれを比べながら見ている。」(Gさん)、「字幕ありで1回見て、2回目は字幕なしで見えるように努力している。2、3回見てそれでも単語がわ

からなかったら、ストップして字幕に注意して見る。」(Nさん) というように、かなり学習者によって違う。

歌の場合も、歌詞を見て歌う、聴く、歌詞を翻訳するなど様々な学習方法がある。インターネットは、ドラマの脚本をプリントアウトして読む、新聞記事を読む、mixiの日記、blogを読んで、コメントを書くという学習方法がある。

このようにリソースによって学習方法が多岐に渡っているため、リソース別に学習方法を整理していくことが今後必要である。

#### 4. 2. 3 リソースを利用したことによる学習効果

ここでは、リソース別にどのような学習効果があるのかを見てみることにする。

マンガの場合、「子どもや韓国で会うことのできない年代の人たちの言葉がわかるようになる。」(Hさん)、「若者の言葉、新語、短縮語などが学べる。」(Nさん) というように、様々な表現がわかるという学習効果があるようだ。

ドラマ・アニメ・テレビ番組・映画など映像によるリソースは、主に聞き取りにいいと答える学習者が多かった。また、それぞれ難易度があるので、レベルに合わせて学習するのがいいという学習者もいた。例えば、「アニメは単語が簡単なものが多いので、自信がつく。」(Fさん)、「ドラマが85%ぐらいわかったら、バラエティ番組へ。バラエティ番組が85%ぐらいわかったら、ニュースを見るというように自分のレベルに合わせて見たほうがいい。」(Qさん) というように、アニメ、ドラマ、バラエティ番組、ニュースの順に難易度があると認識している。

歌の場合、「歌ったり、聞いたりしているうちに自然と口から出てくる。歌で勉強した後、話すとき、文法的に間違っているのかどうか気づくことができる。」(Hさん)、「日本語を早く声に出す練習になる。」(Nさん)、「歌いながら歌詞が覚えられる。意味がわからなくても、その単語にまた出会ったとき覚えやすい。」(Oさん) というように、自然と単語が覚えられ、口慣らしになるといった学習効果があるようだ。

交換スタディは、「習ったことを多様に活用して練習することができる。」(Dさん)、「ゆっくり話しながら、間違えたところを直してもらい、日本ではこのように話すなど教え合う。それで、日本人と接する怖さがなくなる。」(Iさん) のように、日本人を通して、

学習者がいろいろな学習をしようと努力しているのがみられる。

以上は学習者が感じたことを述べてもらったものなので、実際に効果があるとはっきりは言えないが、これらを参考に実際に効果があるかどうか、参与観察などを通して調べる必要があるだろう。

#### 5. まとめと今後の課題

インタビューを通して、インタビューに協力してくれた学習者は、教室活動では、日本人が使う自然な表現を学べないと感じている学習者が多く、教室活動で学ぶことのできないもの（日本人が使う自然な表現を学ぶ、日本の文化、流行に触れたい、日本人と交流を深めるなど）を、リソースを通して、補おうとしていることがわかった。

リソースの利用において、初級の学習者は、マンガ・童話・小説・雑誌など読むためのリソースを使用しておらず、また学習手段としてのリソースの利用が少ない。一方、中級は、多様なリソースを利用しているか、自分に合う上達のための方法を身につけている学習者がいた。今回、上級、超級レベルの学習者にインタビューすることができなかったため、上級、超級レベルでの学習リソースの使用状況を調べ、各レベルにおけるリソース使用の違いを調べる必要がある。

北京合同ジョイントゼミで、英語や多言語の学習経験から学習ストラテジーを応用しているかもしれないということ、上級、超級まで上達するにつれての学習リソースの移行について調べる必要があるなど、この研究についての様々なアドバイスをいただいたので、これらを今後の課題としていきたい。

#### 注

1. mixi（ミクシィ）とは紹介を受けて登録ができ、インターネット上で日記やコミュニティに参加できるソーシャル・ネットワーキングサービスのこと。PMPは動画のファイルを持ち歩き、見ることができるもの。交換スタディは日本人、韓国人2人でお互いに日本語と韓国語を教え合うこと。グループスタディは学習者同士が自主的に集まって開く勉強会のこと。

#### 参考文献

小河原義郎・笠井淳子・石井恵理子（2006）「韓国調査に

- 見るインタビュー調査方法の検討ーインタビュー調査によって学習者から引き出されたものー』『日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 海外報告書』国立国語研究所 pp.192-203
- 工藤節子（2006）「台湾の日本語学習者の学習リソース利用ーインタビュー調査からー」『日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 海外報告書』国立国語研究所 pp.83-107
- 国立国語研究所（2004）『平成15年度 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 韓国アンケート調査 集計結果報告書』
- 鈴木理子（2007）「大衆文化をリソースとして日本語学習ー個別対応型授業で行う意義ー」『桜美林言語教育論叢 3』 pp.33-49
- 田中望・斎藤里美（1993）『日本語教育の理論と実際ー学習支援システムの開発ー』大修館書店 pp.44-45
- トムソン木下千尋（1997）「海外の日本語教育におけるリソースの活用」『世界の日本語教育』7 国際交流基金 pp.17-29

やながわ ひろこ／同徳女子大学大学院日語日文学科  
jamjak@gmail.com